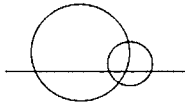


〈諸事項の報告・紹介〉



## 出前事業について

愛知大学東亜同文書院大学記念センター  
客員研究員

越知 専

2001年（平成13年）愛知大学写真研究会部会長の関谷有加（当時3年生）さんから、東松照明（昭和29年卒写真部OB）に名誉顧問の、筆者宛（昭和28年卒写真部OB）に名誉会長の委嘱状が届いた。

それより以前、愛知大学学生課長や事務局長の計らいで、愛知大学のクラブ活動の代表者の懇談会が開かれ、OB達の支援が話題になり、それが実を結んだようだ。

それ以来、筆者は愛知大学写真研究会と応援団（平成15年から応援団後援会特別顧問）のメンバーと密接なつながりを持つようになった。

それによって、愛知大学応援団と写真部は一体になって活動を始め、東三河の中高校にエールの送り方や演舞の指導、人間関係の礼儀奉仕の精神を子供達と語り合ってきたこの10年間50回以上の出前授業を行なって来たのである。



報道された出前授業

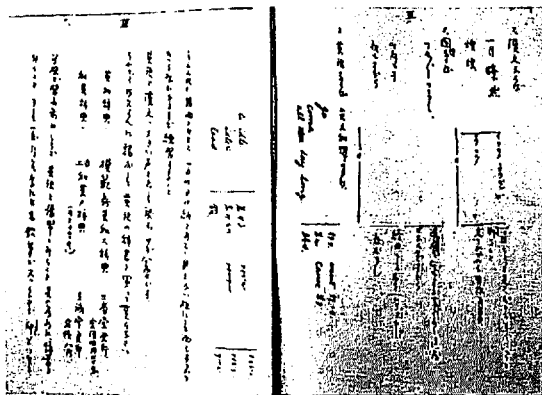
ところが、それだけでは物足りないと感じ、東亜同文書院時代から数えて、100年以上の伝統を持つ愛知大学の歴史や特徴を紹介し、「愛知大学を志す若者の入学が増える」ことを希望して、パネルやテキストを用いるようになった。

それは、愛知大学東亜同文書院大学記念センター発行の「本間イズムと愛知大学 実例編－その真髓を実話から学ぶ－」と「同資料編－その真髓を国会証言から学ぶ－」であり、前書は語り口調で漫画や写真をふんだんに取り入れ、中学生・高校生のみならず家族揃って読んで頂くよう編集（アンケートに事例とし、その結果があらわれている。）し、後者は法律や社会情勢に興味を持ち、本間イズムを称讃する学者や企業の有識者などを対象に編集。これらの人々からのアンケートが多い。

愛知大学の精神は「教育は愛なり」「欣然愛人」のもとで「致中和」の精神を学んだ本間喜一名誉学長が実学を通し実行した言葉である。

そんな時2009年（平成21年）9月、本間喜一先生の直筆の手紙2通が見付かった。一つは、愛知大学設立以前、64年前の手紙であり、愛知大学設立にかける思いや、苦勞とその決意をしたため毛筆4枚であり、起業家や事業経営者に役立つ資料であり（参考事項 頁にあり）一般社会の人達にも参考になる書簡である。

もう一つの手紙は大正時代ドイツ留学時代、実家の甥（16才）に当てた「中学校生の勉強の仕方」であり、「漢文、国語、英語、数学、地理、歴史、博物」などについて詳しく説明してある。

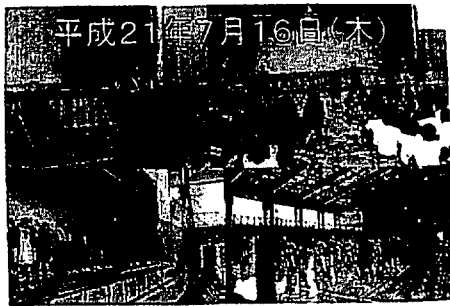


中学校生の勉強の仕方

そのうえ、「小さいうちは誰か教えて呉れますが、私共の様になると、もう教えてくれる人はありません」「小さい時分から自分で進んで勉強する習慣をつけなければなりません」と書いてあった。

### 越知先生、応援団のみなさん ありがとうございました

- ・私はこの機会を通して、「本日の応援」というものを覚えることができました。(1年)
- ・みなさんからのメールを力にかけて夏の大会、全力で戦います!(2年)
- ・本気で戦って応援すれば絶対に何かあるものがあると信じています。(3年)



### 新城市立鳳来中学校

2009年の  
応援文あり

中学生からの御礼のアンケート

従ってこの手紙は中学校出前授業の教材としても使えそうなものであると思っている。

このように出前授業のいろいろの教材が出揃ったのである。こうなると最早「まちはたクラブ」の「本間喜一イズムを啓蒙する会」だけでなく、愛知大学当局や同窓会本部としての支援をもって「三位一体」でやるべきではなかろうか。

### 最高裁判所事務総長時代

本間喜一は1947(昭和22)年～1960(昭和35)年の間、初代最高裁判所事務総長を務めた。これは初代最高裁判所長である三淵忠彦氏から抜擢されて就任した。三淵氏は本間が東京で司法官候補として採用され、研修時代の上司であった。これがきっかけとなり、本間は自分の長男の名前を忠彦と付けたほど三淵氏を非常に尊敬していた。

愛知大学を設立したときの文相大臣は、三淵氏の後任の第二代最高裁判所長であり、田中耕太郎氏で、本間とは前・長春学校、東京帝国大学法科の同級生であり、親友であった。三淵氏が長官を退任後、本間は3ヶ月ほど引越して事務局長として田中最高裁判所長を務めた。

ちなみに事務局長とは最高裁判所長官(内閣府長官、伊・伊藤親王)と同一の地位の上昇される。この中で最高裁判所事務総長を兼任する事である。任命は最高裁判所によって行われるが、裁判官事務官出身者からこの職に就いた例は、最高裁判所が任命されている。また、事務局長は出向コースであり、それと並んで最高裁判所事務(裁判官)に、各々最高裁判所長官になるものもある。

法曹界の3人の関係

何故なら、早稲田の大隈重信(政界)、慶應の福沢諭吉(財界)、同志社の新島襄(宗教的教育者)などは広く世間の認知するところであるように、司法界に強い(このところ司法試験の合格率の実績)愛知大学、法曹界重鎮(三淵忠彦、田中耕太郎、本間喜一)の創った愛知大学、中国とのパイプの強い愛知大学(中日大辞典はバイブルのように世界中の人々に役立っている)として全国レベルの大学になるべく、質の向上と本間イズムの啓蒙に邁進すべきではなかろうか。

法科大学院別の合格率	合格者数	合格者率
① 一 位	82.9%	83(132)
② 二 位	65.5%	216(269)
③ 三 位	50.3%	149(238)
④ 四 位	49.0%	73(149)
⑤ 五 位	48.8%	20(41)
⑥ 六 位	39.3%	40(120)
⑦ 七 位	30.5%	18(59)
⑧ 八 位	18.9%	7(27)
⑨ 九 位	15.8%	6(26)
⑩ 十 位	15.4%	4(26)
⑪ 十一位	15.4%	4(26)
⑫ 十二位	15.4%	4(26)
⑬ 十三位	15.4%	4(26)
⑭ 十四位	15.4%	4(26)
⑮ 十五位	15.4%	4(26)
⑯ 十六位	15.4%	4(26)
⑰ 十七位	15.4%	4(26)
⑱ 十八位	15.4%	4(26)
⑲ 十九位	15.4%	4(26)
⑳ 二十位	15.4%	4(26)

愛知学院大今年4人  
愛知大合格者私大トップ

中日新聞 09年9月11日より